平氏政権

平氏の乱後、源氏は都における力を失った。一方、都に残る平氏の勢力は増大し、武士団の統領である平清盛は政界に進出する機会を得た。やがて清盛が武士として初めて太政大臣に就き、平氏は全盛期を迎えた。今回は、平氏の経済的基盤と全盛期の様子を主に学習する。清盛の有する貴族的（古代的）性格に着目したい。

○ 平氏の権力増大

●公卿となった清盛

保元（ほうげん）・平治（へいじ）の乱後、都の勢力は(1)＿＿＿＿＿＿の武士団のみとなった。

↓

後白河上皇は、（1）を武士兼公卿（くぎょう）として利用しようとした。

⇒1167 年、（1）は公卿の最上位(2)＿＿＿＿＿＿となった。

◇武士で公卿となった前例なし

図１　平清盛（公卿の姿）

『平家物語』と異なる人物像―平清盛

ある僧が祈祷（きとう）で大雨を降らせて人々の賞賛を受けると、平清盛は「五月雨（さみだれ）の頃には雨の降るのが当然だ」とあざけり笑い、また、大輪田泊（おおわだのとまり）の修築の際には人柱（ひとばしら）を立てることを中止させた。清盛が同時代を超越した合理的・開明的精神の持ち主であったと分かる。しかし一方で、清盛は神仏を深く信じた。そこに清盛の可笑しさ・人間らしさを見いだせる。

図２　平清盛（出家後の姿）

●平氏の経済的基盤

平氏の経済的基盤は次の３つであった。

①知行国（全国の半分で 30 余国）

②寄進地系荘園（500 余カ所）

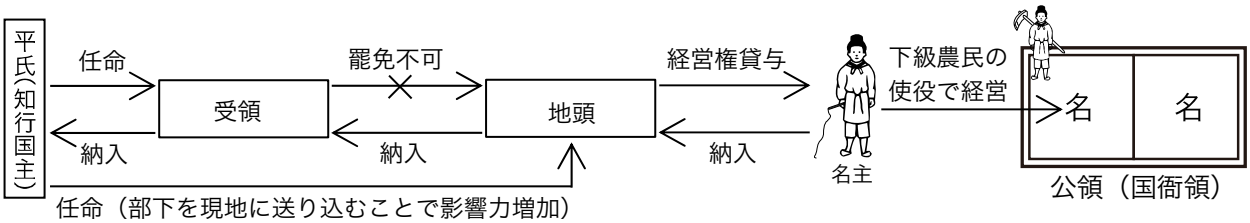
③(3)＿＿＿＿＿＿（平忠盛（ただもり）以来の貿易）

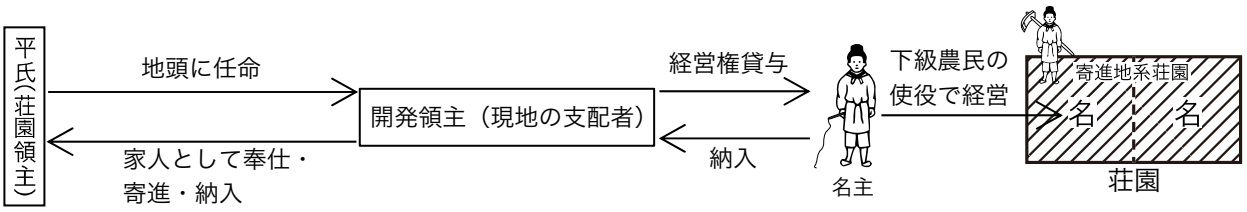
＜知行国・寄進地系荘園について＞

平氏の田地把握の特徴は、公領・荘園の直接支配者に地頭を任命したことである。

◇地頭…役割は荘官と同じだが、背後に強力な武士の保護あり

◇家人…武士の従者のこと





＜日宋貿易について＞

12 世紀初め、宋は金に北部を占拠されて南宋となった。

↓

894 年の遣唐使廃止以来、日本は海外と公的な国交はなかったが、
宋の私的な商船は度々来航していた。

→平忠盛以来、平氏は南宋との貿易に力を入れていた。

⇒(4)＿＿＿＿＿は摂津国の(5)＿＿＿＿＿を修築し、貿易の拠点にした。

◇（5）…奈良時代に行基が開いた港で、12 世紀まで修築されずに放置

◇輸入された宋銭・香料・陶磁器などは**唐物**と総称

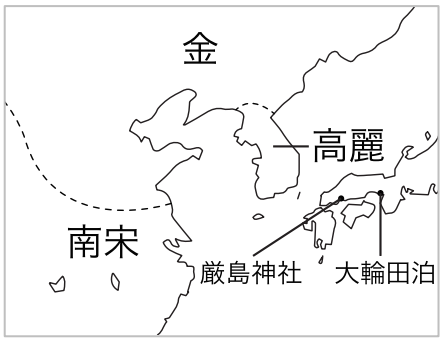


図３　12～13 世紀の東アジア

図４　宋銭（皇宋通宝）
＊宋銭は日宋貿易の主な輸入品

図５　陶磁器

図６　厳島神社の鹿と鳥居
＊厳島神社は貿易の航路を守護

○ 平氏の全盛

●反平氏の意識

平氏一族が皆高位高官に上り詰めると、排除された他貴族は強い反感を覚えた。

◇平時忠（ときただ）「此（この）一門にあらざらむ人は皆人非人（にんびにん）なるべし」(『平家物語』)

↓

1177 年、(6)＿＿＿＿＿＿＿＿

…後白河上皇の院近臣（いんのきんしん）である(7)＿＿＿＿＿・僧(8)＿＿＿＿らが、
都の鹿ヶ谷（ししがたに）の山荘で平氏打倒を話し合い、それが発覚した事件

…平清盛は事件に関与した院近臣を根こそぎ排除

⇒上皇の勢力が著しく低下し、平氏の権力は上皇を圧倒した。

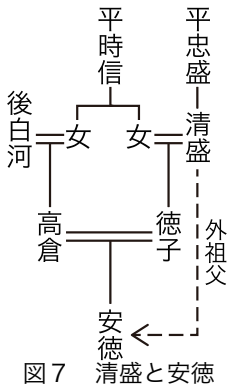


図７　清盛と安徳

●平氏の貴族的（古代的）性格

平清盛の娘**徳子**（建礼門院）が、後白河上皇の子(9)＿＿＿＿天皇に入内（じゅだい）した。

→1180 年、徳子・（９）の子(10)＿＿＿＿天皇が２歳で即位すると、
清盛は天皇の母方の祖父「外祖父」となった。

⇒これにより、反平氏の気運はますます高まった。

図８　安徳天皇

平氏の密偵―禿

『平家物語』によれば、清盛は「14～16 歳の童を 300 人選び、髪を禿（かむろ）（おかっぱ）に切り揃え、赤い直垂（ひたたれ）を着せて京の中をうろつかせた」という。そして、平氏を悪く言う者を逮捕させ、また、その財産も没収させた。真実か創作かは意見が分かれるが、少なくとも平氏が京内の警察権までも掌握したことをよく伝える話と言える。